

10章 助動詞構文1

問題

【1】

ポイント

基本助動詞の用法を概括する。もし知識として確立していないものがあったら、必ず確認しておくこと。

解答・解説

(1) Can

- 「本当にありうるのか。」と考える。

(2) should, can't

- should には「～すべき；～はず」の他にもさまざまな意味があるので注意。【2】を参照のこと。

(3) will

- 助動詞 will には‘現在の固執・意志（～しようとする）’という意味がある。

(4) shall

- shall は1人称の意思を表す。憲法とは国民が国家権力に対してその限界を定めた条項であって、主権者たる国民の意思が shall で表されている。つまり、「国民をすべて（国家権力に対して）尊重させるべし」という意味合いになる（‘立法’の shall とも言う）。

(5) ought

- ought は単独では用いない。必ず to とともに ought to として使われる（否定は ought not to）。

(6) must

- 直訳は「私に関して何かがおかしかったに違いない。」となる。「助動詞+完了形」の形は重要。詳しくは【3】を参照のこと。

(7) used

- used to do 「かつては…だった」
- used to do は‘過去の状態・動作’を表す。また、現在との対比として使われることもある。would often（‘過去の動作’を表す）との違いは押さえておくべき。

(8) may

- may ~ but …（～かもしれないが、…）という譲歩形式の一つ。

(9) dare

- dare は本動詞としての用法のほか、否定文や疑問文では助動詞として用いられることがある。

(10) need

- need は本動詞としての用法のほか、否定文や疑問文では助動詞として用いられることがある。

Ex. He didn't need to do it. (動詞), He need not do it. (助動詞)

【2】

ポイント

should にはさまざまな用法がある。ここで一気にまとめて覚えてしまおう。

解答・解説

- (1) c 「ジャスミンが生物学についてそんなに知っているなんて驚きだ。」
○ ‘主觀’の should とか‘感情’の should と呼ばれるもの。should を省くと直説法になる。
例えば, It is surprising that Jasmine knows so much about biology. とすると感情が薄れ、客観的記述になる。
- (2) d 「彼が東京を直ちに発つことが必要です。」
○ ‘必要性・重要性’の形容詞の後には仮定法現在が来るが、主にイギリス英語では should を置く。この should は間接的に‘話し手の要求’や‘願望’などの気持ちを表す。
- (3) e 「できましたら今晚お伺いしたいのですが。」
○ 主にイギリス英語では、1人称が主語の時に would を用いずに should を用いて‘控えめな意志’を表す場合がある。
- (4) b 「ルーシーはもうそろそろここに来るはずだが。」
○ should が‘当然の推量’を表して‘～のはずだ’の意味になる場合がある。
○ by now 「今頃は；そろそろ」
- (5) f 「万一あなたがそれを必要だと思う場合、私にメールをください。」
○ 仮定法の条件節で should が用いられると、話し手が可能性が低いと思っている条件を表し‘万一～ならば’という意味となる。この場合、帰結節には直説法や（本問のように）命令法も来ることに注意しておく。
- (6) a 「あなたは1日1時間の筋トレを行うべきです。」
○ should が‘～すべき’という‘義務・必要’を表す場合である。ought to より意味は弱い。

【3】

ポイント

‘助動詞+完了形’は、一般に過去の出来事に対する推量を表す。

- must have *done* 「…したに違いない」
- may have *done* 「…したかもしれない」
- cannot have *done* 「…したはずがない」
- should have *done* 「…すべきだったのに」
- ought to have *done* 「…するはずだったのに」
- need not have *done* 「…する必要はなかったのに」

※ ここで have + done は‘完了’というより、時制が現時点より過去であることを示し、助動詞を用いた現在の判断から考えて‘かつて～だったのに’という意味を示す。

解答・解説

(1) is certain

「彼は今朝列車に乗り遅れたに違いない。」

○ was ではなく is であることが重要。あくまで must は現在の判断を表す。

(2) cannot have made

「トムがそのプロジェクトで重大なミスをしたはずがない。」

○ ミスをしたという過去のことを現在 cannot と判断している。

(3) ought, have checked

「ルークがチェックもせずに答案用紙を送ってしまったのは残念だ。」

(4) needn't have brought

「あなたは傘を持ってくる必要はなかったのに（持ってきた）。」

【4】

A.

全訳

最も古い語は全て自然の音の模倣から始まったと考えるべきではない。④音が単なる偶然によって物と結びつくようになったこともしばしばあったに違いない。 そうでなければ、言語によってこれほどの多様性はないはずである。どの言語でも最初の語がどうしてできたかは単に推測の事柄でしかありえないが、⑤話そうとする最も初期の試みを、直接研究できる方法が1つある。 それは赤ん坊を観察することである。

赤ん坊はまったく原始的な人間である。我々は赤ん坊の中に人間という動物の本能と欲求と能力を自然の状態で見ることができる。そしてきっと、⑥音によって意思伝達をしようという赤ん坊の最も初期の努力を見ることにより、原始人がどのようにして同じ道を歩み始めたかということについて、いくらか学ぶことができるに違いない。

B.

全訳

ニュートンの秘書—— 実際には何の血縁関係もなかったのだがこの人もまたニュートンと呼ばれていた——が次のような記録を残している。ニュートンはめったに笑わなかったし、時折トリニティ・カレッジの庭を少し散歩する以外は運動を全くしなかった。しかしそんな散歩すら突然止めて、自室にかけ戻ることがよくあった。部屋に戻ると座ろうともしないで、たった今頭に浮かんだばかりの着想をメモし始めることがよくあったという。

C.

全訳

子供は大人になるまでは子供でいるのが自然である。もし我々がこの順序に干渉するならば、子供は味わいもなく、腐りやすい未熟な果物のようになってしまうだろう。こざかしい若者や、子供っぽい老人を作り出してしまうだろう。子供には、子供特有の見方、考え方、感じ方があり、その子供のやり方を大人のものと取り替えることほど無分別なことはない。

10歳の子供が理性的な生き物であることを望むくらいなら、いっそのこと5フィートの背丈になることを望んだ方がましだ。その歳で、理性など何の役に立つだろう。

【5】

解答

- (1) It seems that fame in the modern world (has) lost its meaning.
- (2) 「全訳」の下線部①, ②参照。
- (3) c
- (4) 彼らが若くて顔立ちが整っていること。

解説

- (1) 完了不定詞が用いられている点に注意。its meaning = fame's meaning
- (2)
 - ①
 - ◇ 「～に慣れる」「…することに慣れる」という場合, get used to O […ing] であって, get used to do とはならない。
*cf. You will soon get used to getting up early in the morning.
(早起きすることにすぐに慣れるよ。)*
 - ◇ without knowing much about the people behind them 「表には見えない、その人となりを大して知らずに」
 - them = famous faces
 - ②
 - ◇ In a society in which anyone can become famous 「誰であれ有名になることができる社会では」
 - 関係詞節 in which anyone can become famous が先行詞 a society を修飾している。
 - ◇ empty 「無意味な；空虚な」
 - ◇ with 「～をもった；～のある」
- (3) ここでの c recognize の意味を示しておく。
 - ◇ recognize = know who someone is or what something is, because you have seen, heard, or learned about them in the past
- (4) 下線部⑤の直前にある apart from は「～は別とし, ; ~を除いて」, that は前文の内容を指している。

全訳

かつてアメリカ人芸術家アンディー・ウォーホルは、誰もが15分間有名になることはすぐにできる、と言った。現代世界における名声は、その意義を失ってしまったようである。昔は、人々は自らの功績によって有名になった。有名な政治家、有名な芸術家、有名な哲学者などがいた。もちろん、悪いことをして有名になることもあります。

しかし、最近では実際には何の理由もなく有名になることもあります。①我々の日常生活のあらゆる部分にマスメディアが浸透しているので、表には見えないその人となりを大して知らずとも、有名な人たちの顔には見慣れてしまう。ある俳優が出演している映画を観たことはないが、顔を見れば誰であるかわかるとか、あるポップ歌手の歌を聴いたことはないが、顔を見れば誰であるかわかるという人が多い。ひょっとすると、有名な顔が最も重要な商品であるのかもしれない。

我々は、有名人が雑誌の表紙やテレビの画面に登場するのを目にする。若くて、顔立ちが整っている場合が多い。しかし、そのことはさておき、一体彼らが有名なのはなぜであろうか。彼らには特筆すべき点がない。こういう人たちは、「有名であるために有名になった」のである。名声はもはや功績に基づくものではない。毎日、マスメディアによって生み出され、我々に売られているのである。②誰もが有名になることができる社会では、名声などほとんど価値のない、あるいはまったく価値のない無意味なものなのである。

注

- l. 1 ◇ artist 「芸術家」
- l. 2 ◇ in the past 「過去において；昔」
- l. 3 ◇ achievement 「業績；偉業」
- l. 4 ◇ philosopher 「哲学者」
 - ◇ and so on 「など」
- l. 6 ◇ for no real reason 「実際には何の理由もなく」
- l. 9 ◇ perhaps 「ひょっとすると」
- l. 10 ◇ product 「産物；産出物；製品」
- l. 11 ◇ magazine cover 「雑誌の表紙」
 - ◇ good-looking 「顔立ちのよい；美しい」
- l. 12 ◇ why should they be famous? 「一体彼らが有名なのはなぜであろうか」《should は疑いの気持ちを強める》
 - ◇ special 「特別な；特殊な」
- l. 13 ◇ fame 「名声；評判」
- l. 14 ◇ create 「～を生み出す；もたらす」
 - ◇ media 「マスメディア；マスコミ」

【6】

ポイント

それぞれの助動詞の使われ方に注意しながら整序英作文に取り組もう。細かい順番にも注意が必要である。

解答・解説

(1) You had better not smoke while on duty.

「勤務中はタバコを吸わない方がよい。」

had better …を否定し「…しない方がよい」になると had not better …ではなく had better not …となる。while on duty は while (you are) on duty と考える。

○ on duty 「勤務中」

(2) You would rather not make a decision right now.

「今すぐ決めない方がよいでしょう。」

○ would rather … 「…した方がよい」

○ would rather not … 「…しない方がよい」

(3) There used to be a castle on the top of the mountain.

「昔はその山の上にお城があった。」

There (is) 構文に used to do を組み合わせた形にする。

(4) It must have been her illness that changed her physical appearance.

「彼女の外見を変えてしまったのは病気だったに違いない。」

It is ~ that … の強調構文に ‘助動詞 + 現在完了 (= must have been)’ を組み合わせた形。

(5) Her piano was just terrific; she may well be proud of her musical talent.

「彼女のピアノはただ素晴らしいかった。音楽の才能を自慢するのはもっともなことだ。」

○ may well … 「…するのももっともだ」

【7】

解答

(1) should (2) may (3) shall (4) did

解説

(1)

It is ~ that … の構文で、以下のリスト中のような形容詞または分詞が使われるか、形容詞と類似の意味の名詞が使われる時、that 節の中で、話し手の驚き、残念、心配などの反応や善悪などの判断を表す should が用いられることがある。本問はその一例。

absurd, curious, fortunate, logical, natural, odd, regrettable, ridiculous, strange, unfortunate, alarming, amazing, astonishing, disappointing, frightening, shocking, surprising, 《名詞》 a pity, a shame

したがって本問は

It is natural that he should have got angry. (彼が怒ってしまったのは当然だ。) となる。

なお、この構造形式で should を使わなければ仮定法現在（つまり原形）ではなく直説法が続く点に注意。

つまり本問は should を用いなければ

It is natural that he | got angry.
 | have got [gotten] angry.

となる。

(2)

However hard … は譲歩を表す副詞節で「どんなに一生懸命に…しても」の意味になる。

このような譲歩を表す節中では、may が用いられ、However hard he may work, となる。

ただしこの形は文語体で、However [no matter how] he works で十分に正しい文である。

(3)

Let's … に後続する「付加疑問」は Shall we? である。なおこの文は start よりも leave を用いる方がナチュラルに聞こえるというのが米国人インフォーマントのコメントである。

(4)

否定の副詞が文頭に出て、文否定の場合、**否定の副詞 + 疑問文の語順** になるという絶対的 (obligatory) なルールがある。

本問は

I little thought that I left the house never to return.

の little が文頭に出たので、前述のルールが適用され、

Little did I think that I left the house never to return. となる。

なおこの little は never と同意で、全体の意味は「私が家を出て二度と帰らないことになろうとは夢にも思わなかった。」となる。

little が believe, care, dream, expect, guess, know, suspect, realize, think といった動詞の直前または文頭に位置すると、never; not at all と同じ意味になる、というのはたいていの辞書に載っている基本的な語法である。

【8】

解答

- (1) Don't forget to turn off the light before you go to bed.
- (2) Make sure that the fire is out before you go to bed.
- (3) What are you waiting for?
- (4) What are we waiting for?
- (5) I made up with Tom.
- (6) That stands to reason.

解説

(1)

- 「寝る前に」と言われようと「寝る時に」と言われようと、「床につく前に」の意なら before one goes to bed を用いる。
- 「…するのを忘れないようにして下さい」は Don't forget to do で表す。to 不定詞の基本的な指向性は未来なので、この to do はまだ実現していないことを示す。
cf. forget …ing (…したことを忘れる)
- 「灯かりをつける〔消す〕」は次の表現で表す。
turn on [off] the light
turn the light on [off]
switch on [off] the light
switch the light on [off]
- 「灯かりを消す」は put out the light とも put the light out ともできる。
- この文脈での「灯かり」は、その部屋の灯かりを指すので、了解事項として the がついている。

(2)

- 「～か確かめなさい」は make sure (that) ~ を用いる。
- 火や灯かりが「消えている」は The fire is out.; The light is out. のように be out を用いて状態を表す。
cf. The candle is out. (ろうそくが消えている。)

(3)

「何をぐずぐずしているんだ。」「さっさとやつたらどうだ。」といった内容を for を使って表現すれば What are you waiting for? となる。

文字通りには「何を待っているのですか。」となるが、emotional なイントネーションで発話すれば「何をぐずぐずしているんだ。」となる。この感覚は英語では非常に重要で、

How long have you been in Japan?

または、

Been in Japan long?

は通常、「日本に来てどのくらいですか。」の意味で用いられるが、非難を込めて emotionally に発話すれば、日本に来て 20 年以上にもなるのに、ラーメンを食べる時にフォークを要求するアメリカ人などに「何年いるんだよ。」と非難する時の表現となる。

(4)

「急ぎましょう。」「何をぐずぐずしているんだ。」「さっさとやろうよ。」といった内容を for を使って表現すれば What are we waiting for? である。考え方は (3) と同じで直訳をすれば「私たちは何を待っているのですか。」emotional なイントネーションで発話すれば「我々は何を待っているんだ。」→「急がなくちゃ。」となるのである。wait は入試では頻出する単語である。次の用例を頭に入れてほしい。

- ① Wait until you hear the big news. (待ってなさいよ。すごい知らせを聞くから。)
- ② Just you wait. (今に見てな。)
①②の wait はわくわくする〔驚く；はっとする〕ことを述べる時に命令文で用いる。
- ③ We will have to wait and see what happens.
(何が起きるのかを見守らないといけない。)
- ④ This work can wait. (この仕事は後回しだ。)

(5)

「～と仲直りをする」を with を用いて表せば make up with ~ となる。この句動詞を用いれば本問は、

I made up with Tom.

I have made up with Tom.

となる。なお、make up with ~ と反対の意味を表すのは、break up with ~ である。「(夫婦などが) けんか別れをする」の意味である。

(6)

「～は理にかなっている」は入試頻出表現の一つ。英語では ~ stand to reason である。この stand ~ は「～の状態である」の意味。to reason は形容詞句で、reason は「理屈」。この to は「～に合って〔合わせて〕」の意味で用いられており、以上をふまえれば本問は

That stands to reason.

となる。なお、「一致」を表す to は受験生の盲点の一つ。

dance to the music (その音楽に合わせて踊る)

clothes made to measure (寸法に合わせて作った服)

This dress is not to my liking. (このドレスは私の好みに合わない。)

のように入試では頻出する。

今日の一言

When the cat is away, the mice will play. 「鬼の居ぬ間に洗濯。」

When the cat is away のように、一般的に言えば、従位接続詞は副詞節を作る。「猫が居ない時、ネズミは遊ぶ。」が直訳だが、日本語では「鬼の居ぬ間に～」となる。先生がいないからといって遊んでしまうのはいかがなものだろう。そんな時にもしっかりと自習することで、合格が近づくと考えよう。

E2TS/E2T
高2難関大英語S
高2難関大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--